

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立成名小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

自然を愛し、自ら考え行動する 心あたったい成名っ子の育成

自分で考えねばり強くがんばる子
素直で思いやりのある子
体をきたえる元気な子

今年度の指導の重点

- 1 基礎学力の充実を図り、主体的に取り組む学習態度を育てる。
- 2 一人一人のよさを生かしながら、自主的・創造的な活動の推進を図る。
- 3 人権尊重の精神を養い、互いに励まし合って向上しようとする態度を育てる。
- 4 自然体験を重視し、たくましい心身の育成と体力の向上に努める。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国

国語A・B、算数A・B、理科について、県や全国の平均と比べるとかなり正答率が高い。
国語Aは、言語事項の正答率は、本校90.3%(全国77.2%)。書く能力は、本校93.8%(全国86.0%)。
国語Aの筆者が引用している言葉を書き抜く問題の正答率が低い。・本校25.0%(全国19.8%)
算数は、四則計算は強いが、数量関係や図形の領域の正答率が低い。
理科は、活用問題の正答率が高い。特に、方位についての情報から、観察している方位を選ぶ問いは、本校81.3%(全国41.0%)。
観察・実験の技能は他の観点より低い正答率。星座の動きを捉えるために必要な記載事項を選ぶ。本校37.5%(全国55.3%)

県

国語、社会、算数、理科全て県の平均正答率を上回った。特に理科の活用は、県平均を大きく上回る。しかし、社会の活用は、県平均よりやや下回る。
国語は、漢字の読み書きが弱く、無回答率も高い。
国語は、文章を読み取り、条件に沿ってまとめを書く問題は、本校33.3%(県20.4%)、リーフレット作成でよくするための意見を提案する問題は、本校22.2%(県27.9%)
社会は、基礎は県平均を上回り、活用は下回っている。社会的な思考・判断・表現、資料活用の問題が弱い。
日本の国土と気候の問題は、本校16.7%(県34.3%)、戦国時代の社会の問題は、本校16.7%(県32.8%)。
算数は、活用問題は、県平均正答率を大きく上回っている。数と計算、量と測定、数量関係は強いが、図形の問題が弱い。
理科は、活用問題の平均正答率が県平均を大きく上回った。電流のはたらきの問題は、本校83.3%(県68.7%)、物の燃え方は、本校44.4%(29.4%)。

【学習状況調査の結果】

「近所の人にかつたら、あいさつをする」と答えた児童の割合が県より高い。
「学校へ行くのが楽しい」と感じている児童の割合が県平均と比べてかなり高い。
授業の予習をしてくる児童の割合が全国平均と比べるとかなり高い。
土日の家庭学習が1時間未満の児童が県平均に比べてかなり高い。
「自分には、よいところがある」と思っている児童の割合が県平均よりかなり下回っている。
普段の日のテレビの視聴時間や、ゲームをする時間が、県平均と比べ長い。
ニュースを見る、社会で起きている問題や出来事に関心がある児童が少ない。
「読書が好き」と答える児童の割合が県平均をかなり下回っている。地域の図書館や学校の図書室の利用率も低い。
地域の行事に参加している児童の割合は、全国平均に比べてかなり高い。
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思っている児童の割合は、県平均より高い。
総合的な学習の時間で自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する活動に取り組んでいることに「当てはまらない」と選んだ児童の割合が県平均を下回っている。
「理科が好き」「理科は大切」と答えている児童は多いが、将来、理科や科学技術を生かした職業に就きたいと思ってる児童の割合がかなり低い。
授業のはじめにめあてが示されている、最後に学習内容を振り返る活動をしていると思っている児童の割合が全国平均に比べてかなり高い。
自分の考えを説明する、感想を書くことが難しいと感じている児童の割合が高い。

成果と課題

国語A・B、算数A・Bの正答率が昨年度より高くなっている。
漢字の小テスト、四則計算練習を繰り返し、定着を図ったことが結果として表れている。
書く領域については、昨年度より正答率が高くなっている。しかし、自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることは難しいと感じている児童の割合が高い。
「理科の勉強は好きだ」と答えている児童は多いが、将来理科を生かした職業に就きたいと思っている児童の割合が低い。
家庭で予習をする児童が多くなった。平日の家庭学習の習慣は、身につけているが、土日は、自ら進んで学習しようという意欲は今一歩である。
「自分にはよいところがある」と思っている児童の割合は、昨年度より高くなっているが、全国平均よりやや低いことから、自尊心を高めていく必要がある。
テレビの視聴時間が長いこと、就寝時刻が遅いなど生活習慣の見直しが必要である。

課題に対応した改善方法

漢字の読み書きや計算の小テストを定期的実施し、児童のつまづきをきめ細かく把握し、個に応じた支援を行う。
授業の中で自分の考えを書いたり、伝えたりする時間を確保する。読み取ったことや考えを字数やキーワードの条件を入れ、文章を書く練習をさせる。
説明文や物語文の読み取り問題を単元終わりや朝の活動で練習させる。
予習・復習を全校で取り組む。望ましい自主学習の内容を指導したり、好事例を紹介したりするなどして、取り組みを活性化させる。
学力学習状況調査の問題を単元ごとに授業で活用する。
算数の領域別問題の小プリントを活用し、習熟を図る。
「にっここ成名っ子カード」「家庭学習カレンダー」の取り組みをし、保護者の協力を得て、家庭での生活習慣の確立を図る。
自分のよさを認め、学習やくらしの中で評価し合う活動をさらに充実させる。
社会の様々な問題に興味を持たせるために、新聞やニュース等の情報をまとめたり、発表したりする活動を増やす。

取組の検証方法及び検証時期

授業の中で記述問題をとり、考えを書いたり、伝えたりする時間を多く取り入れる。(授業時間、朝の活動)
漢字・計算の小テストや単元テストを実施し、児童自身にもふり返りをさせる。(単元末、学期末、学年末)
国語・算数の学力テストを実施し、定着が低い内容について検証し、補充問題をさせていく。(4月)
書くこと、伝えることに自信を持たせるため、作文の発表、日記を学級通信などで紹介する。(単元末、学級通信の発行時)
「にっここ成名っ子カード」を学期1回実施し、記録を残し、比較する。学級懇談でも話題にあげる。(6月、11月、2月)
「家庭学習カレンダー」を毎日記入させ、家庭学習の習慣づけを図る。
学校生活アンケートを実施し、結果を受けて改善を図る。(学期末)

達成目標(数値目標)

4教科の平均正答率で全国・県平均を上回る。
現在よりもテレビやゲームの時間を減らし、家庭学習の時間を増やす。(90%)
自分の考えを書いたり、伝えたりできるようにする。(85%)
「自分にはよいところがある」と回答する児童の割合を100%にする。